



# TOUR NEWS

インターネットアドレス <http://www.jgto.org>

発行 日本ゴルフツアー機構 東京都港区赤坂1-3-5 赤坂アビタシオンビル5F TEL.03-3585-7381 FAX.03-3585-7383

## アジア対日本\*チーム対抗戦

# 『第1回ダイナスティカップ』がいよいよ開幕!

アジア各国の代表とジャパンツアーメンバーが、お互いのツアーの誇りと名誉をかけて戦うチーム対抗戦『ダイナスティカップ』がいよいよ開幕する。

大会は3月14日(金)~16日(日)の3日間、中国・深センの「ミッションヒルズゴルフクラブ・ワールドカップコース」で行われる。

試合は初日がフォアサム、2日目がフォアボール、そして最終日がシングルと米国対欧州のライダーカップ方式を採用して、各マッチ形式のポイントを累計して争われる。この試合の賞金はゼロ。まさに各ツアーのプライドと意地をかけたチーム戦なのである。

注目の代表選手を紹介しよう。

まず日本とアジアの両ツアーで48回の優勝を誇る謝敏男(台湾)キャプテンが率いるアジアチームは、昨年のアジアンPGAツアーの賞金王であるジョティ・ランダワ(インド)、2001年の賞金王でダイナスティランキングでも1位となったトンチャイ・ジェイディ(タイ)の両エースを筆頭に、2月の欧州ツアー・カルテックスマスターズであるE・エルスを破って優勝した張連偉(中国)、ジャパンツアーでもお馴染みのジープ・ミルカ・シン(インド)やブラヤド・マークセン(タイ)らが出場。

一方、「世界のアオキ」こと青木功キャプテンが率いる日本チームは、昨年の日本ゴルフツアー選手権優勝者で賞金ランク2位の佐藤信人、昨年7年振りに優勝して年間2勝を飾り完全復活を果たした中嶋常幸、さらには昨年末に行われた初めてのアジアンPGAとの共同主管競技であるアジア・ジャパン沖縄オープンのチャンピオンである藤田寛之ら多士済々のメンバーを揃えた。

各チームの出場資格は厳格で、アジアチームは2001、2002年の2年間の合計ポイントによって8名を選出し、謝キャプテン推薦の4名を加えた計12名で構成。対する日本は、同様に2年間の賞金の合計によって10名を選び、青木キャプテン推薦による2名を加えて計12名を選出した。

「12名の選手は間違いなくアジアのベストプレーヤーで最強のチーム」と謝キャプテンが言えば、青木キャプテンも負けじと「中嶋、飯合、室田といったベテランに近藤のようなイキのいい若手が揃い、とつとも楽しみだ」と気炎を上げる。

2年に1度行われる『ダイナスティカップ』。記念すべき第1回大会だけに、両チームのポルテージは早くも上がっている。果たして、栄冠を手にするのはアジアかそれとも日本か。注目の大会が間もなく開幕する。



舞台となるミッションヒルズGCワールドカップコース

### 出場予定選手

#### アジアチーム

(キャプテン・謝 敏男)

ランキング	選手名
1	T・ジェイディ(タイ)
2	C・ウィ(韓国)
3	A・アトワル(インド)
4	S・タマヌーン(タイ)
5	T・ウイラチャン(タイ)
6	姜 旭淳(韓国)
7	張 連偉(中国)
8	J・ランダワ(インド)
推薦	J・M・シン(インド)
推薦	P・マークセン(タイ)
推薦	林 根基(台湾)
推薦	梁 文沖(中国)
リザーブ	K・H・ハン(ミャンマー)

ランキングは2001~2002年アジアンPGAツアーの合計ポイント

#### 日本チーム

(キャプテン・青木 功)

ランキング	選手名
4	佐藤 信人
5	中嶋 常幸
6	手嶋 多一
8	藤田 寛之
9	宮本 勝昌
12	室田 淳
13	鈴木 亨
14	近藤 智弘
15	今野 康晴
16	深堀圭一郎
推薦	飯合 肇
推薦	桑原 克典
リザーブ	宮瀬 博文

ランキングは2001年と2002年の2年間合計の賞金ランキング

# トーナメント規定2003の主な改正点

2003年度よりトーナメント規定の一部が改正されます。主な改正点(太・色文字)を紹介します。

## 1. プレーヤーと主催者に関わる事項

競技が短縮された場合に賞金が減額されるが、主催者の好意により、100%支払われる場合があることを追記した。第52条(4)「悪天候等で競技中止またはラウンド数が短縮された場合、ツアートーナメントの場合別表Aの区分1から16を適用し、チャレンジトーナメントの場合別表Bの区分24から27を適用し賞金を支払う。但し、JGTOと主催者との個別の協議により、上記に関わらず100%の賞金を支払う場合がある。」

一部基準に該当しないトーナメントとして、「海外ツアーとの共同主管トーナメント」を追加する。

第12条(1)日本オープンゴルフ選手権競技

(2)日本プロゴルフ選手権大会

(3)日本プロゴルフマッチプレー選手権

(4)ゴルフ日本シリーズ

(5)海外ツアーとの共同主管トーナメント

主催者推薦出場資格で、アジアPGAツアーライセンス保持者が別項に記載されているので、アメリカ等と同等の項にまとめた。

第13条(2)(C)「アメリカ、ヨーロッパ、オーストラレイジア、南アフリカ、アジアPGAのツアーライセンス保持者とそれに準ずる実績を有する者で運営委員会が認めた者。」

尚、第13条(2)(d)は削除する。

生涯獲得賞金3億円の資格該当者が、2002年度までで資格を満了したため、第14条(1)「出場資格」から削除する。

プロアマ大会で大会週に欠場者が発生した場合は、ツアーディレクターが主催者との協議により、補充するプレーヤーを選考することができる。

第29条(1)「出場するツアープレーヤーの選出は本競技の出場者で、その50%は前年度賞金ランキングの順位から選出し、残りの50%は主催者選考枠とする。又、主催者はその選考方法をツアーディレクターに提出する。チャレンジトーナメントのツアープレーヤーの選出は、ツアーディレクターと

主催者で協議し決定する。尚、プロアマ大会で大会週に欠場者が発生した場合は、ツアーディレクターが主催者との協議により、補充するプレーヤーを選考することができる。」

第59条(5)「競技の成立は、ツアートーナメントは36ホール、チャレンジトーナメントは18ホールとする。」を追記する。

出場優先順位について、第14条(2)に「特別保障制度適用者が複数の場合の出場優先順位は、過去5年のツアートーナメント獲得賞金の合算額によって決定する」ことを追記する。

同様に、「獲得賞金が同額の場合の出場優先順位は、前年度出場優先順位に基づく」を追記する。

チャレンジトーナメント優勝者は、翌週から12ヶ月間のチャレンジトーナメント出場資格を得るが、この期間を、その年と翌年1年間に変更する。2003年度優勝者より適用を受ける。

第23条(1)「チャレンジトーナメント優勝者/翌週からその年と翌年1年間。2003年度優勝者より適用」

「シード権」という呼称を、「出場資格」または「出場優先順位」に統一する。但し、慣例として報道で使用する場合はその限りでない。

## 2. 主催者に関わる事項

第46条のトーナメント開催契約書締結後に、トーナメント開催を中止する場合の違約金に関して、「トーナメントの開催6ヶ月前まで(トーナメント初日から起算して6ヶ月前の前日まで)は賞金総額の20%、トーナメントの開催6ヶ月以降(トーナメント初日から起算して6ヶ月前の当日から)は賞金総額の50%とする」と修正する。

第45条トーナメント開催申し込みの手続きに関して、(3)「トーナメント開催契約書は、トーナメント日程発表前までに締結されるものとする」を追記する。

## 3. プレーヤーに関わる事項

第14条(1)の生涯獲得賞金ランキ

ング上位25位の出場資格(2003年の該当者までの適用とし、2004年以降は各年度末時点の上位25位以内者が、その他出場資格を失った翌年度以降に、適用年を選択できる1年間のシード資格を得る)を、2004年度以降に使用する場合の意思表示の締め切り期限を、「出場を希望する年度の、前年度末までに意思表示をしなければならない」と定めた。

第33条(2)における特別保障制度が適用される負傷または疾病の範囲を、「ツアープレーヤーとしての活動に起因する負傷または疾病」と定める。

細則第2条(2)に参考記録のリカバリー率の解説を追加した。「パーオンしないホールで、パーがそれより良いスコアを獲得する率」

第14条(3)に関して初めてアメリカ、ヨーロッパのツアーメンバー資格を年度途中で取得した場合、「出場義務競技数免除申請の期限を、資格取得後10日以内」と定める。

第18条の現地ウェイティングの手続きに関して、(7)「主催者選考会(マンドートーナメント等)に出場した選手は現地ウェイティングをすることができる。」を追記する。

第32条(6)を「プレーヤーは競技成立のために予備日が設定されている場合は、翌月曜日でもプレーを行なうことを心得なければならない。」と改める。

第32条(8)に「ツアートーナメントにおいては、キャディ(帯同、ハウス、学生などの種別は問わない)は練習ラウンドから伴わなければならない」ことを追記する。

細則第4条(5)のリランキング実施期日を、「第1回目は2002年第50週(2002アジア・ジャパン沖縄オープン)から2003年第27週(ウッドワンオープン広島)までのリランキングを第29週(サトウNST新潟オープン)から適用し、第2回目は2002年第50週(久光製薬KBCオーガスタ)までのリランキングを第36週(サントリーオープン)から適用する」

## 短期的なビジョン、そして中長期的なビジョンを明確にし、 確固たる体制を作り上げていきたい。 JGTOとは手を取り合いゴルフ界の活性化を目指していきたい。

社団法人 日本プロゴルフ協会 会長 **長田 力**  
The Professional Golfers' Association of Japan

2003年1月1日より財団法人日本プロゴルフ協会(PGA)会長に就任。地元九州でプロとアマチュア  
が出場できるミニツアーをプロデュースするなどの経験を生かして、改革に向けて邁進する長田力  
会長に、今後のビジョンやゴルフ界についてお話をうかがった。



- PGA会長に就任されてから1ヶ月が経ちましたが、今のお気持ちを  
お聞かせ下さい。

実ははじめ会長職を打診された時は、私が出来ることではないと思っ  
たのですが、一晩じっくり考えて、今自分が出来ることが、ゴルフ界の  
ためになるのであれば、ゴルフ界に長い間携わってきたものとして、頑  
張っていこう、やろう！ と考えまして会長職をお受けしました。

就任時に描いていた構想はありましたが、改革というのは一気に出来  
るものではないので、自分の構想に会員などの意見を取り入れながら、  
進めていっています。

- 会長就任時にたてられた方針・構想を聞かせていただけますか？

まず、定款・規定がツアーのあった頃のままになっています。実情に  
即していなくなってきましたので、これを変えていくことと、内部、  
事務所の組織改革を行うこと。そして年金問題です。これは長期的な話  
になりますが、PGA会員が年をとって体が動かなくなった時に、ある程  
度の生活をするのに困らない程度の年金がもらえるようにしたい。これ  
は大きな目標だと考えています。

次に、PGA会員の意識改革です。PGAとしては当然バックアップをし  
ていきますが、PGA会員一人一人がPGAだという  
意識を持って活動をしていてもらいたい。

次の2つは、ゴルフ界の活性化のためにも是非  
実現していきたいのですが、まずアマチュアがプ  
ロとラウンド出来る機会を増やしたい。プロアマ  
ではなくアマチュアとプロが同じ舞台上で戦うこ  
とが出来るところを作りたい。

そして、ゴルフスクールの立ち上げです。ゴル  
フの楽しさを分かってもらってゴルフ人口を増や  
すことがゴルフ界の活性化につながっていきます。  
既存の練習場もありますが、ゴルフ場にも練習場  
施設がありますので、そういった場所も活用して  
いきたい。PGAとしては、日本全国で地域に根付  
いたレッスンを目指していきませんが、4000人近い会員がいますので、可  
能なことだと考えています。任期が3年と短い間ですので、即出来るも  
のをやっていくのは当然ですが、地域密着や年金など中長期的なスパン  
で考えなければいけないものも、10年から20年続けていけるような確固  
とした体制を作り上げていきたい。現状、ある程度のプランは出来てき  
ていきますので、それを実現に近づけていきたいと思っています。

- 早い段階で何か形になる成果をあげていきたいですね。

事務局内でも組織改革をして、縦の業務体制を変え、横の情報を共有  
できるようにしました。少人数でも、一人一人の職員が全ての職務を把  
握して、担当部署ではなくてもお互いが意見を出し合っているものをつ  
くっていかないと考えています。事務局も若返りましたので、私も含め  
みんな新人みたいなところですよ。

しかし、将来を見越して、一気に部署替えを行いました。ここでやら  
ないと何のために若返ったか分からないじゃないですか。早い段階で形  
を出していけると考えていますし、その体制も出来ていると考えていま  
す。

- 日本プロ、マッチプレー、シニアツアーなどのトーナメント競技に  
ついての考えを聞かせていただけますでしょうか？

まず、日本プロゴルフ選手権は一番古いトーナメントですし、またメ  
ジャートーナメントですので日本プロ独自の出場カテゴリーを活用しな  
がら、権威ある大会にしていきたいと考えています。PGAとしても、日  
本プロゴルフ選手権はPGAという名が入ったトーナメントですし、他の

スポンサーさんがそれぞれのトーナメントで費用対効果を望むように、  
PGAとしても費用対効果を望むことが出来るように価値を高めていき  
たいですね。

日本プロマッチプレー選手権もマッチプレー形式という1つしかない、  
これも権威ある大会ですから継続していきたい。今、スポンサーを探し  
ていますが、最終的には長期的に継続していける大会にしていきたいと  
考えています。

シニアツアーに関しては、たくさんあった試合が現状6試合と少なく  
なっていますが、シニアの活性化については考えています。長く米シ  
ニアツアーで活躍する青木さん、昨年欧州シニアツアーで賞金王にな  
った海老原さん、全英シニアオープンで優勝した須貝さんなど日本のシ  
ニアプレーヤーは人材が豊富です。それに加え、今JGTOで活躍している有  
名選手がもうそろそろシニアに入ってくる時期ですので、スター選手を  
迎え入れる体制を作っておかないといけないと考えています。

しかし、景気のせいにはしたくないのですが、社会情勢が上昇してこ  
ないとなかなか難しいというのが実情です。試合が減少してきたこと  
に対してしっかりと反省し、教訓としながら、また選手達と話し合いをし  
ながら、シニアツアーが盛り上がりやすいような組織を作っていくとい  
うのが一番いいと思っています。

- 現状のゴルフ業界をどう打破していかなければ  
いけないと考えていらっしゃいますか？

まず、今すぐにしていかなければいけないのは、  
ジュニアの育成だと考えています。これに関し  
てはどの団体も考えていると思いますが、それぞ  
れの団体が手を取り合って、すぐにも実行してい  
かなければいけないと考えています。今が苦しい  
からといって、ジュニアを育成していかないと、  
ずっと苦しいままです。苦しい中でも、将来のゴ  
ルフ界の人材を育てていかないといけない。

今は景気がよくありませんが、そういった中でもゴルフ場でカート  
の導入をして気軽にラウンドが出来るようになってきた。これで安くプ  
レーをすることが出来るようになった。そういったいいところも出てき  
ている。まず活性化をすること。そのためには、ゴルフ人口を増やすこと。  
現状のゴルフの回数を少しでも増やしてもらおう。何もしなければ、何も  
生まれてこないですから。それが練習場やゴルフ用品、ゴルフ場、しい  
てはツアーの活性化にもつながっていくと思います。

PGAとしてはレッスンだけをしていけばいいというのではなく、4000  
人の会員で、ゴルフ界をどう盛り上げていくか。ゴルフのプロフェッ  
ショナルの団体として、どうにかしていかなければいけないと考えていま  
す。

- JGTOに期待されること、望むことはありますか？

まずJGTOはツアーを、PGAはシニアツアーやティーチングなど、そ  
れぞれの団体がやるべきことをしっかりやっていかなければいけないと  
考えています。その中で、PGAとして協力することがあるのであれば、  
すぐにも応援協力していきたいと考えています。ゴルフ界の活性化に  
向けてJGTOさんとは手を取り合って、頑張っていきたいと考えていま  
すし、いかなければならないと考えています。

長田 力 昭和27年12月17日生(50歳) 福岡県出身。社会人野球の出身で、  
ゴルフを始めたのは20代になってから。1985年にプロテストに合格。1995年  
岐阜オープン(後援競技)にて優勝。競技生活を退いてから、地元九州で若  
手育成のためにプロ・研修生・トップアマチュアが出場できるミニツアー  
をプロデュース。PGAの理事(2000、2002年)を経て、2003年より会長職に就任。

## ツアープレイヤーの健康管理に関するアンケート結果

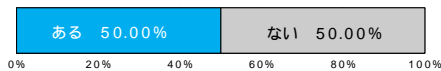
ツアー活動による負傷や疾病のために特別保障制度の適用を受ける選手が年々増える傾向にあり、多くの選手が身体に故障を起こしていることが予測される。そこで昨年11月、ツアートーナメントに出場資格を有する92名の選手を対象に健康管理に関するアンケート調査を実施。その結果をレポートする。

### Q1. 身体に痛い部位はありますか？

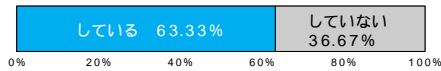
(複数回答可)

ない...32人  
腰...23人  
首...16人  
肩...13人  
背中...11人  
手首...7人  
肘...6人  
股関節...5人  
かかと...3人  
指付根...2人  
足...2人

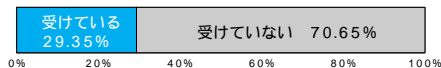
### Q1-1. 身体の痛い部位が理由でトーナメントを棄権、欠場したことはありますか？



### Q1-2. 身体の痛い部位が理由で通院していますか？

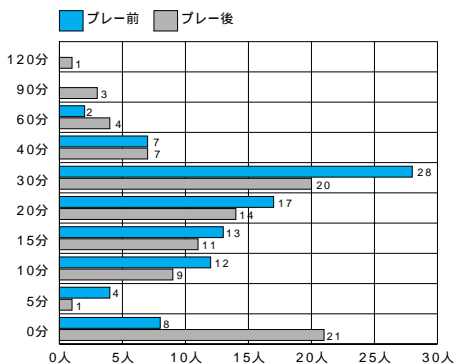


### Q2. 人間ドックを定期的にかけていますか？



定期的に人間ドックを受けている27人のうち、13人が1年に1回の割合で受診しています。更に2年に1回が5人、1年に2回以上と答えた選手も4人いました。その一方で、血液検査だけで済ませる選手も4人いました。

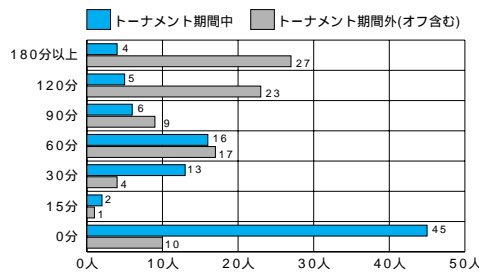
### Q3. ストレッチは何分行いますか？



トーナメント期間中にストレッチにかかる時間は、プレー前に30分行う選手が最も多く28人。次いで20分、15分と続き、77%に当たる71人が10分~30分のストレッチを行っています。最も時間をかける選手は60分でした。一方、ホールアウト後ではスト

レッチをしない選手が最も多く21人、最も時間をかける選手は120分でした。また半数以上の59.57%の選手が、ホールアウト後よりもスタート前に時間をかけてストレッチを行っていることが分かりました。

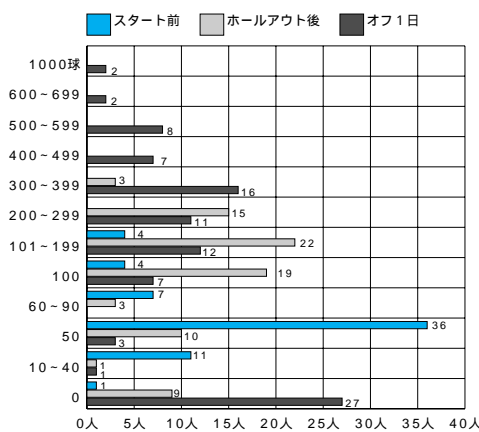
### Q4. トレーニング(ランニング、筋トレ)を一日どのくらい行っていますか？



ランニング、筋力トレーニングにかかる1日の時間は、トーナメント期間中は行わない選手が半数近くを数えました。

反対にオフには2時間と回答を寄せた選手が最も多く23人、3時間11人、4時間6人、5時間5人、6時間5人となっています。

### Q5. 1日の練習でどのくらいボールを打ちますか？



トーナメント期間中、スタート前に打つボールの数は50球が最も多く36人、次いで40球が6人という結果が出ました。これはスタート前の練習では48球または50球との制限があるためです。尚、練習しないと回答した選手も1人いました。

ホールアウト後では100球が19人、200球が15人で過半数以上を占めています。

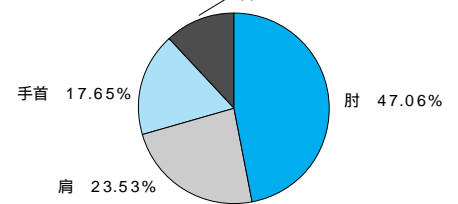
またオフでは1000球打つと回答した選手が2人いました。

### Q6. ドライバーの素材がパーシモン、メタル、チタンに移行する際に肘、肩、

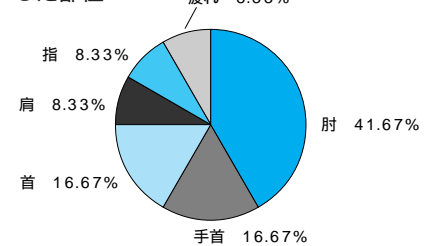
### 首に痛みを感じましたか？

痛みを感じたと答えた選手が26人いましたが、そのうち半数がパーシモンからメタルへの移行時でした。残り半数のうち42.31%がメタルからチタンへの移行時に痛みを感じたと答え、違和感を感じただけの選手も1人いました。

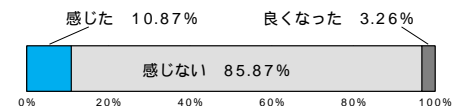
### パーシモンからメタルへの移行時に痛みを感じた部位



### メタルからチタンへの移行時に痛みを感じた部位

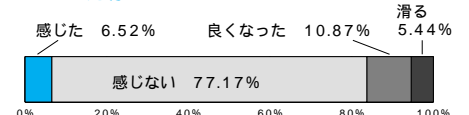


### Q7. シャフト素材がスチールからグラファイトに移行する際に肘、肩、首に痛みを感じましたか？



痛みを感じた部位は肩、肘がそれぞれ30%を占め、その他の首、手首、身体の疲れ、違和感が各10%でした。

### Q8. シューズ素材がメタルスパイク、スパイクレス、ソフトスパイクに移行する際に足、膝、腰に痛みを感じましたか？



痛みを感じたと答えた選手はわずか6人だけで、むしろ具合が良くなった選手が10人いました。痛みを感じた選手のうち半数は足首で、残りは腰、かかと、身体の疲れでした。

尚、今回のアンケート対象者のメタルスパイクとソフトスパイクの使用比率は、メタルスパイクが20%、ソフトスパイクが80%でした。

## 第9回 ルール勉強会および2003年度合同ルール研究会

2月4日(火)～6日(木)の3日間、日本ゴルフツアー機構(JGTO)競技スタッフの知識の向上を目的として、「第9回ルール勉強会」が実施された。

ルール勉強会は、初日と3日目はJGTO事務所内の会議室を使用して行われ、2日目の5日(水)は、都内の文京シビックセンターにて、(財)日本ゴルフ協会、(社)日本プロゴルフ協会、(社)日本女子プロゴルフ協会を招いて、JGTO競技スタッフ及び新聞社、テレビ局、雑誌等の報道関係者が出席し、「2003年度合同ルール研究会」として行われた。

この「合同ルール研究会」は昨年に続き2度目の開催になるが、昨年を大きく上回る総勢74名が参加。午前の部は、JGTOでは既に適用が決定している反発係数(COR)について他団体から適用に関しての発表があり、報道関係者からの質疑応答もあった。また午後の部では、昨年各ツアーで実際に起きた裁定実例をもとに、ゴルフルールについての議論などが行われた。日本のゴルフ4団体が一団に会するとあって議論も白熱し、あつという間の6時間がたち終了となった。

一方、初日と最終日に行われたJGTOでのルール勉強会では、本年度のジャパンゴルフツアー規則の最終チェックをすると共に、「合同ルール研究会」での裁定についての再確認と本年度のクオリファイングトーナメント関連について話し合いが行われた。

### ■ ルール勉強会で確認された主な項目

#### 2003年度ツアー規則の改訂

競技の条件の1番目に、反発係数(COR)適用条項が組み入れられたのが一番大きな変更点になる。また、険悪な気象状況のためプレーの一時中止時に関して、これまで練習場やパッティンググリーンに関する記述が無かったため、安全を第一に考え米PGAツアーの規則を参考にし、すべての練習場をクローズするように追記した。

#### 競技規則の変更点

##### (追加)1 ドライビングクラブ

ロフトが15以下のドライビングクラブの反発係数(COR)が、R&Aが承認する測定器によりその数値が0.830以下でなければならない。詳細は各会場に掲示する。

##### (追記)5 険悪な気象状況のためプレーの一時中止(規則6-8b注)

注: 険悪な気象状況の為にプレーが一時的に中止となっている場合、競技委員から許可があるまでは全ての練習場(指定練習パッティンググリーンを含む)をクローズとする。これに違反した場合はトーナメント規定第39条により第38条に定める制裁処分を科す。

#### 反発係数(COR)について

1999年に米国ゴルフ協会(USGA)が「反発係数0.830以上」のクラブはUSGAルールに不適合とすると発表して以来話題を集めてきた反発係数(COR)。

USGA傘下の米PGAツアーでは、一昨年からCORの適用が実施されていたが、ロイヤルアンドエインシエント・ゴルフクラブ・オブ・セントアンドルース(R&A)傘下の地域(アメリカ・メキシコ以外)では適用されていなかった。

しかし、昨年の8月にR&AとUSGAが反発係数問題で合意。以下の4項の規定を発表した。

- 2008年1月1日までの間、大部分の競技及び一般プレーに対し、「スプリング効果」のテストとCOR値制限を実施しないままとする。
- 2003年1月1日から2007年12月31日に至る間、上級プレーヤーを対象とする競技に限り、その競技委員会は競技の条件の中でCOR上限値を0.830に決定することができる。R&Aはこの競技の条件を2003年以降の全英オープンに適用する予定であり、またメジャープロツアーにこの適用を推奨する予定である。



- 2008年1月1日より、ゴルフ規則にはCOR上限値を0.830(またはこれと同等の値を表す表示-下記4項参照)とする適合テストを加えるよう改編される。
- 当面はUSGAが採用しているCORテストをテスト方法として使用するが、より簡易なテスト方法の開発を継続していく。

この発表によって、欧州PGAツ

アーでも今年から適用することを決定している。欧州PGAツアーでの適用をきっかけに、欧州PGAツアーと共同開催のトーナメントがある豪州PGAツアーとアジアPGAツアーでも適用を決めている。

現在、毎週月曜日にUSGAとR&Aが最新の不適合クラブリストをホームページ上に掲載している。不適合クラブは昨年の5月には82本だったが、翌6月には154本、10月には201本、12月には260本を突破。今年の1月末には300本を超えている。

尚、CORに関する日本の各団体の対応は次のとおり。

#### <日本ゴルフ協会>

アマチュアの大会、日本女子オープン、日本シニアオープンに「反発係数0.830以下」は適用しない。

日本オープンに関しては予選会では適用しないが、本戦については再度検討する。

#### <日本プロゴルフ協会>

「反発係数0.830以下」は日本プロゴルフ選手権の本戦、日本プロゴルフマッチプレー選手権、PGAカップチャレンジトーナメントのみ適用する。

#### <日本女子プロゴルフ協会>

全ての競技で適用しない。

#### <日本ゴルフツアー機構>

WGCフェデレーションならびに各プロツアーとの足並みを揃え、世界統一ルールでの開催が望ましいとの判断により、「反発係数0.830以下」を2003年度より主催および主管する競技に適用することを決めた。

JGTOでは、不適合クラブリストを毎週火曜日にインフォメーションボードに掲示するが、1月初旬に開催されたアジアPGAツアーのクオリファイング・トーナメントに出場した日本人選手から多くの辞退者が出たと聞いているので、徹底的に告知していく。

#### 適用条件

- 反発係数測定器または適合クラブリストが出来るまでは、不適合クラブリストを適用する。
- 不適合クラブリストは、各競技週の火曜日正午までにJGTOがインフォメーションボードに掲示し、その試合に適應する。
- 2003年度の途中で反発係数測定器および適合クラブリストが出来、JGTOが適應要項を変更する場合は、JGTOは変更事項をインフォメーションボードに掲示する。

#### \*ルール勉強会を終えて

JGTO競技運営ディレクター  
渡辺章太郎



3日間にわたって「ルール勉強会」を行いました。中でも2月5日に行った「2003年度合同ルール研究会」は、今年で2回目の開催でしたが、昨年を遥かに上回る方々に御参加していただき、非常に有意義な勉強会になりました。特に報道関係の方々からの出席が増えました。

来年もより多くの方々に御出席していただき、低迷している日本のゴルフ界を少しでも盛り上げていきたいものです。

## ◎ 広報室

### JGTO競技委員、スタッフが海外で活躍!

ジャパンゴルフツアーのスタッフが、今年も海外ツアーで活躍する。

まず、2月26日(水)～3月2日(日)まで米国カリフォルニア州カールスバットにあるラ・コスタ・リゾート&スパで行われる2003年ワールドゴルフチャンピオンシップ第1戦、アクセンチュアマッチプレーにJGTO競技委員のクレイトン青谷が招待された。



クレイトンはハワイ出身の日系4世で、英語・日本語とも自在に操る語学力を持ち、また元プロゴルファーとして豊富な知識と経験を兼ね備えている。2001年静岡県御殿場で行われたWGC - EMCワールドカップでも運営スタッフとして活躍し、今回の指名を受けることになった。

「2001年ワールドカップでの経験を生かして、今後の競技委員人生を頑張っていきたい。そうすれば日本ツアーから世界に通用する選手がもっと増えるはずだから」と、クレイトンは言う。

アクセンチュアマッチプレーを経験することで、更なる成長が期待されるクレイトン。今後の活躍が楽しみだ。



そしてもう一人が、JGTO競技運営国際ディレクターの山中博史だ。

2月3日に米国オーガスタナショナルGCコンペティション・コミティのW・F・ニコルソンJRチェアマンから正式に、2003年マスターズトーナメントのルールズコミティ参加への要請を受けた。これによって、山中は昨年に続き2度目の遠征を果たす。

山中はマスターズトーナメント開催週の4月9日(水)、現地のマグノリア・スイート(1番ホールフェアウェイ横)で開かれるミーティングに出席し、そこで大会期間中の作業割の発表を受けたあと、任務に就くことになる。

世界の舞台で活躍するJGTO競技委員とスタッフ。選手ともども応援をよろしくをお願いします。

### スナッグゴルフセット寄贈小学校が決定!

昨年7月に開催した日本ゴルフツアー選手権イヤマカップにおける社会貢献活動の一環として、全国の小学校低学年(1年～3年生)を対象に寄贈することになっていたスナッグゴルフセット。スナッグゴルフは、テニスボールよりひとまわり小さいボールをアイアン型の大きなヘッドで打つもので、子供たちが安全に楽しむことができるスポーツ。既に公立小学校の特別活動授業(クラブ活動)などにも取り入れられている。

油谷町立川尻小学校	山口県大津郡	福山市立桜丘小学校	広島県福山市
神戸市立月が丘小学校	兵庫県神戸市	小野市立小野小学校	兵庫県小野市
須磨浦学園須磨浦小学校	兵庫県神戸市	小野市立下東条小学校	兵庫県小野市
多摩市立東寺方小学校	東京都多摩市	奈良市立鶴舞小学校	奈良県奈良市
浜松市立浅間小学校	静岡県浜松市	日野市立第四小学校	東京都日野市
東和町立森野小学校	山口県大島郡	小野市立河合小学校	兵庫県小野市
世羅町立津久志小学校	広島県世羅郡	広島市立矢野西小学校	広島県広島市
早川町立早川北小学校	山梨県南巨摩郡	小野市立市場小学校	兵庫県小野市
世羅西町立小国小学校	広島県世羅郡	安来市立赤江小学校	島根県安来市
カリタス小学校	神奈川県川崎市	多摩市立南鶴牧小学校	東京都多摩市
小野市立小野東小学校	兵庫県小野市	甲山町立東小学校	広島県世羅郡
小野市立大部小学校	兵庫県小野市	世羅町立西大田小学校	広島県世羅郡
小野市立中番小学校	兵庫県小野市	世羅町立大見小学校	広島県世羅郡
小野市立来住小学校	兵庫県小野市	横浜市立藤塚小学校	神奈川県横浜
世羅町立大田小学校	広島県世羅郡	佐伯町立友和小学校	広島県佐伯郡

寄贈にあたっては、「ゴルフについての夢」というテーマで原稿用紙1枚以内の作文を公募。全国の小学校36校から応募があり、厳選な審査の結果、30校(別表)が決定した。

当選校へは既にスナッグゴルフセットを送り、各学校が希望する日程でインストラクターを派遣して、先生及び生徒にスナッグゴルフの講習を行う。

また、今年の日本ゴルフツアー選手権の3日目にあたる7月5日の土曜日には、栃木県の西那須野カントリー倶楽部において、寄贈校及び既にスナッグゴルフを採用している小学校・団体による「スナッグゴルフ対抗戦JGTOカップ」も予定している。

### 栃木県のスポーツ振興と日光杉並木街道保護へチャリティ

2002年度日本ゴルフツアー選手権イヤマカップにおける社会貢献活動をもうひとつ。

日本ゴルフツアー機構は昨年引き続き、栃木県教育委員会を通じて県内のスポーツ振興、及び日光杉並木街道保護にチャリティ金を寄付した。2月19日(水)、JGTOチェアマンの島田幸作が栃木県庁を訪問、福田昭夫栃木県知事より感謝状が贈られた。



### 大会名称・開催コース名称変更と大会会場決定のお知らせ

4月3日(木)～6日(日)に行われる東建ホームメイトCUPの大会名称と開催コースの名称が変更になった。また、6月26日(木)～27日(金)に行われるチャレンジトーナメントのPGAカップチャレンジトーナメントの大会会場が決まったので、併せてお知らせする。

大会名称

東建ホームメイトCUP 『東建ホームメイトカップ』

開催コース名称

多度カントリークラブ・名古屋 『東建多度カントリークラブ・名古屋』

開催コース決定 PGAカップチャレンジトーナメント

未定 『鷹の巣ゴルフクラブ』

### JGTOホームページから「Tour News」をダウンロード

本紙「Tour News」は日本ゴルフツアー機構のホームページでもご覧いただけます。バックナンバーも揃えてありますのでご利用下さい。

URL <http://www.jgto.org>

### オフィシャルメールニュース

ジャパンゴルフツアー「プレーヤーズラウンジ」のご案内  
ジャパンゴルフツアーをもっと身近に、  
より面白く観戦していただくために、  
日本ゴルフツアー機構ではオフィシャルメールニュースを配信しています。

ご登録方法

下記URLでファンルームにID登録し、「メールマガジンの購読を希望する」にチェックを入れて下さい。  
購読は無料です。尚、既に登録済みの方には、自動的に配信されます。

URL <http://www.jgto.org/score-j/fanroom/>

## 記録メモ

34

**今**年は、日本プロゴルフ協会がツアー制度を導入して30周年とされる。1973年(昭和48年)当時はツアー確立の認識はなく、単に正式な賞金ランクを協会が発表するようになった、といった程度のものであった。

その証拠に同協会発行の30年史には「シード選手制度を導入」とはあるが、もう少し広い意味を持つツアー制には触れていない。それでも、「トーナメントによっては協会の希望する選手より主催者推薦のほうが多いといったバランスの悪さ」(30年史)は徐々に正され、プロ競技が一定の基準の下で運営されるきっかけとなったことは前進だった。

それ以前の賞金獲得額はマスコミ各社が個別に計算して、独自に発表していた。理由は、破格の飛距離と華やかさを持った尾崎将司の出現で第二次ゴルフブームが起こり、70年代初頭から急速に新規競技が増加。賞金総額の上昇に伴いファンが獲得額にも興味を持ったことにあり、この面では協会が後追いとなった。

ちなみに、正式なランクが登場する前の賞金王を紹介すると、72年は約2750万円、尾崎将司、71年は同1714万円、やはり尾崎。70年は1180万円、河野高明で、この年初めて1千万円の大台突破が記録された。

ところで「ツアー」という言葉は、各地を巡って出発地に戻る旅行が第一義。そこで、隣接地で連続開催となると「それでもツアーか?」との疑問を持たれる向きもある。もっともなことだが、ゴルフの場合「旅」の要素はすっかり薄められている。ある定義によると「開催日程が決められた、プロゴルファーのための一連のトーナメント」であり、場所には触れていない。代わりに出場資格、賞金配分など、一部を除けば各競技が共通の規定を持つことがツアー競技の条件となっている。

この言葉は米国で使われ始めたものだが、厳密に発生年を定めることは不可能とされている。「1895年に第1回全米オープン、その後99年にはウエスタンオープンも開始されたが、これだけでは連続性を欠いているためツアーといえない」という意味のことが公式記録書に記されているが、その発祥は各地を巡回することと無縁ではなかったようだ。

米ゴルフ界は、百年ほど前から内外の強い刺激を受けた。例えば、1900年には先進・英国で人気、実力とも第一人者のH・バードンが、自分の名をブランドにしたボールが米国で発売されたのを機に、相棒のJ・ブレードと米東部に遠征。13年には全米オープンで、バードンとT・レイの英国実力派を地元のアマ、F・ウィメットがプレーオフで破るという衝撃的な出来事もあり、急速にファンが増加した。

そうした流れが22年にテキサスオープンを創設させるなど、同地域のウインター・サーキット誕生につながった。同様の動きは西海岸、フロリダにもみられ、次第に活発化。後に一連のツアーとなる。

なぜ冬季に開催となったのか? 夏場は、各地のゴルフ協会は自身が主催する競技や全国大会に向けた準備や本選に忙しく、選手もそこに照準を合わせる。後発の食い込む余地は冬場しかないというわけだ。

そんな中でも、努力は続いた。特に、27年に開始されたロサンゼルスオープンは当時としては破格の賞金総額1万ドルを提供して注目を集め、以来66年まで開幕戦の栄誉を担うことになる。

余談だが、31年に米本土に渡った宮本留吉プロは年末から西海岸、さらにテキサス、フロリダと連戦、北上しパインハースト(ノースカロライナ)でB・ジョーンズらとフォアボールで対戦し、5ドルのベットに勝ち紙幣にサインをもらった話は有名だ。

これは取りも直さずツアー発展の道程そのもの。また、その時に宮本プロのマネージャー役を務めたB・ハーローは、PGAトーナメント・ビューローのトップに就くなどツアー育成に尽くした一人でもある。

30年代から、第二次大戦をはさんで戦後も成長を続けた米プロゴルフ界だが、内部には火種もあった。PGAの会員になるには21歳以上のほかに、5年間著名コースのヘッドプロ、そのアシスタント、年間25試合以上に出場...などの条件のひとつを満たさなければならなかった。付け足せば、J・ニコラスが数字では最上位でも、一度もバードントロフィー(平均スコア1位)を獲得していないのはこの規定が影響している。

大会スポンサーやテレビ局からの収入を含め、華やかな部分を担っているツアープロも、協会内部ではさほど力を持たなかったのだ。

こうした背景があって、大まかにいえば支配力を持つティーチングプロと収入を運んでくるツアープロが敵対する。内紛は省略するが、PGAから完全独立を狙ったツアー派は、68年12月にコミッションナーを頂点とするトーナメント・プレーヤーズ部門としてPGAに残る形で決着。実質的には同部門が独自の道を歩み、それが今日まで続いている。

一方、ゴルフ発祥地の英国を抱える欧州ツアーが現行の形になったのは71年10月1日。J・ジェイコブスはその長に指名された時を持って正式発祥とし、翌年からツアー競技がスタートしている。

ところで、日本では時折「ツアー成立以後では...」との注釈付きで記録が報じられることがある。もし大相撲で、場所数と関係のない記録を「年6場所以前だから」との理由で省略したら、好角家ならずとも異議を唱えるだろう。

先人の功績が「ツアー制度」を理由に無視されることがないように願いたい。

「30周年」



## 「ゴルフトーナメント中継番組に関するアンケート」集計結果

Vol.1

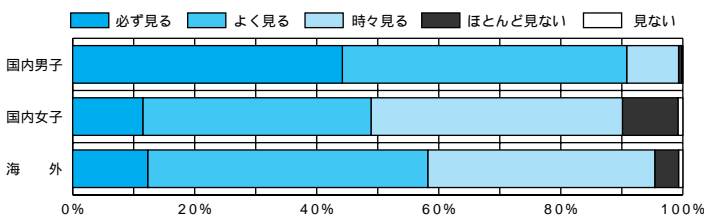
昨年、ジャパングolfツアー オフィシャル ホームページ (http://jgto.org) にて実施した「ゴルフトーナメント中継番組に関するアンケート」の集計結果ができました。回答数は1545人で、トーナメント中継への関心度が非常に高いことがわかります。今月号と来月号の2回に分けてその結果を発表しますが、今回は視聴者から見たゴルフ中継全般についてです。

日本ゴルフツアー機構では今回のアンケート結果を参考にして、トーナメント中継局と検討し、お茶の間の皆様が今後、より楽しむことが出来るTV中継にしていきたいと考えています。

期間：2002年9月25日～2002年10月24日 回答数：1545人（男性1362人：女性183人）

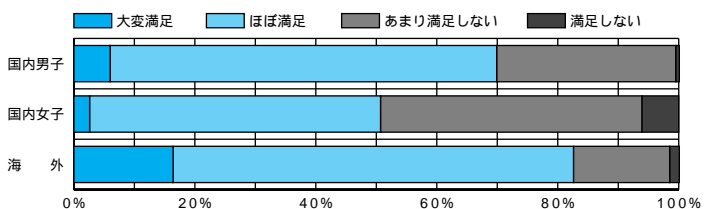
### Q1:どれくらいの頻度でご覧になりますか?

	必ず見る	よく見る	時々見る	ほとんど見ない	見ない
国内男子	683 44.2%	720 46.6%	132 8.5%	7 0.5%	3 0.2%
国内女子	178 11.5%	578 37.4%	636 41.2%	140 9.1%	13 0.8%
海外	190 12.3%	709 45.9%	575 37.2%	60 3.9%	11 0.7%



### Q2:ご覧になって、どれくらい満足されますか?

	大変満足	ほぼ満足	あまり満足しない	満足しない
国内男子	92 6.0%	987 63.9%	457 29.6%	9 0.6%
国内女子	40 2.6%	743 48.1%	668 43.2%	94 6.1%
海外	253 16.4%	1023 66.2%	246 15.9%	24 1.6%



### Q3:緊張感は大変よく伝わってくる...

大変よく伝わってくる... 127 (8.22%)  
よく伝わってくる... 560 (36.25%)  
時々伝わってくる... 699 (45.24%)  
ほとんど伝わってこない... 147 (9.51%)  
伝わってこない... 12 (0.78%)

#### TV中継への提案

アナウンサーや解説者が話さず  
歩いているだけの映像やタバコを  
吸っている映像はほらない

### Q4:ご覧になりたい場面は

大変よく伝えられている... 61 (3.95%)  
よく伝えられている... 548 (35.47%)  
時々伝えられている... 780 (50.36%)  
ほとんど伝えられない... 146 (9.45%)  
伝えられていない... 12 (0.78%)

#### TV中継への提案

スタート前の練習風景を見たい  
多くの選手のショットを見たい

成績の良い選手や若手を必ず取り  
上げて欲しい  
ケール、CS、深夜でもいいので、  
予選日の模様を伝えて欲しい  
選手とキャディとの会話を聞きたい

### Q5:カメラアングルは

大変見やすい... 130 (8.41%)  
見やすい... 919 (59.48%)  
あまり見やすすくない... 350 (22.65%)  
見やすすくない... 69 (4.47%)  
どちらともいえない... 77 (4.98%)

#### TV中継への提案

ボールだけを追っているため、弾道  
がわからない  
ショットを多方向から映して欲しい

### Q6:トラブルの状況は

大変よくわかる... 105 (6.80%)  
よくわかる... 791 (51.20%)  
あまりわからない... 559 (36.18%)

ほとんどわからない... 78 (5.05%)  
わからない... 12 (0.78%)

#### TV中継への提案

トラブル時のルール解説をして欲しい  
どのように対処するのかを伝えて  
欲しい

### Q7:グリーンへの傾斜は

大変よくわかる... 30 (1.94%)  
よくわかる... 249 (16.12%)  
あまりわからない... 938 (60.71%)  
ほとんどわからない... 285 (18.45%)  
わからない... 43 (2.78%)

#### TV中継への提案

CGで表示して欲しい

### Q8:アナウンサーの情報は

大変豊富... 59 (3.82%)  
豊富... 659 (42.65%)  
あまり豊富でない... 560 (36.25%)  
少ない... 135 (8.74%)  
どちらともいえない... 132 (8.54%)

### Q9:アナウンサーの状況説明は

大変よくわかる... 73 (4.72%)  
よくわかる... 860 (55.66%)  
あまりわからない... 517 (33.46%)  
ほとんどわからない... 64 (4.14%)  
わからない... 31 (2.01%)

#### TV中継への提案

持っている情報、知識を出しすぎて、  
中継の邪魔をしている  
勉強不足を感じる時がある

### Q10:放送の中で用いられるデータは

大変豊富... 74 (4.79%)  
豊富... 779 (50.42%)  
あまり豊富でない... 489 (31.65%)  
少ない... 96 (6.21%)  
どちらともいえない... 107 (6.93%)

#### TV中継への提案

飛距離、残り距離を表示して欲しい  
CGを活用したらどうか  
ホームページに掲載しているデータ  
を活用して欲しい  
全選手のスコアを必ず伝えて欲しい  
各選手のさまざまな情報を提供し  
て欲しい

### アンケート回答ご協力者のデータ

#### 【性別】

男性(計1362人)

～20才	18人	1.3%
21～30才	67人	4.9%
31～40才	490人	36.0%
41～50才	503人	36.9%
51才～	284人	20.9%

女性(計183人)

～20才	2人	1.1%
21～30才	27人	14.8%
31～40才	105人	57.4%
41～50才	35人	19.1%
51才～	14人	7.7%

総計(計1545人)

～20才	20人	1.3%
21～30才	94人	6.1%
31～40才	595人	38.5%
41～50才	538人	34.8%
51才～	477人	30.9%

#### 【職業別】

男性(計1362人、うち無回答4人)

1 会社員(パートを含む)	815人	59.8%
2 企業経営者	122人	9.0%
3 公務員	116人	8.5%
4 商工サービス自営業	97人	7.1%
5 専門的職業(医者/弁護士等)	52人	3.8%
6 その他	44人	3.2%
7 無職	43人	3.2%
8 自由業	30人	2.2%
9 学生	19人	1.4%
10 農林漁業	9人	0.7%
11 アルバイト・フリーター	7人	0.5%
12 専業主夫	4人	0.3%

女性(計183人)

1 会社員(パートを含む)	108人	59.0%
2 専業主婦	34人	2.5%
3 その他	11人	0.8%
4 アルバイト・フリーター	8人	0.6%
5 専門的職業(医者/弁護士等)	5人	0.4%
6 無職	4人	0.3%
7 企業経営者	3人	0.2%
8 公務員	3人	0.2%
9 自由業	2人	0.1%
10 商工サービス自営業	2人	0.1%
11 学生	2人	0.1%
12 農林漁業	1人	0.1%

総計(計1545人)

1 会社員(パートを含む)	923人	59.7%
2 企業経営者	125人	9.2%
3 公務員	119人	8.7%
4 商工サービス自営業	99人	7.3%
5 専門的職業(医者/弁護士等)	57人	4.2%
6 その他	55人	4.0%
7 無職	47人	3.5%
8 専業主婦	38人	2.8%
9 自由業	32人	2.3%
10 学生	21人	1.5%
11 アルバイト・フリーター	15人	1.1%
12 農林漁業	10人	0.7%